

日産財団ニュースレター (第38号)

2018年3月発行



はじめに

日産財団では、2016年度理科教育助成(助成期間2017.1.1~2018.12.31)の対象校・団体の1年目の活動状況を把握するための助成校・団体への訪問を実施致しましたので、ご紹介いたします。2016年度理科教育助成の対象校・団体の実践内容の紹介は、本号で終了となります。

◆ 2016年度助成校・団体の活動紹介(2018年2月~2018年2月に訪問した4件)

神奈川県 横浜市中学校教育研究会理科部会



横浜市技能文化会館で開催された研究発表会の様子。広角レンズを用いてシマウマがどのような視野を得ているかを体験し、瞳の形状とシマウマの生活の関わりを考えさせる教材研究や、ICT機器の効果的な活用事例を紹介した指導法研究、イオン概念の獲得を狙った教育課程の研究について、研究発表された。

神奈川県 相模原市立青根小学校



学習発表会の様子。全校児童7名が、自分たちが読み取った心情や情景を言葉と歌で表現した「ごんぎつね」の群読(写真左)。地元の人をインタビューし青根の良さを伝えたり、地域の植物や生物を通して命をつなぐことの大切さを、学校になじめない転校生の心の変化とリンクさせながら伝える創作劇が演じられた。

神奈川県 座間市立栗原小学校



3年生理科「じしゃく」の単元における授業の様子。写真左は、自分たちの身近にあるものが、磁石に付くものかどうか予想している。写真中央では、実際にそれらに磁石を近づけてみて、自分たちの予想に対する結果を確かめている。写真右は、タブレットから大型モニターへ投影しながら、実験結果を発表している。

福島県 いわき市立平第四小学校



5年生「ふりこのきまり」では振子の長さを変えたときの1往復する時間を計測し、各グループのデータを大型モニターで可視化し、結果を整理しながら課題解決能力を引き出した。4年生はタブレットで撮影した一年間の映像やスケッチをもとに、気温の変化によって植物や動物の様子はどのように変わったかを考えさせた。

** 2017年度アンケートご協力のお礼と2016年度アンケート結果のご報告 **

今年も2010年度~2017年度の助成校・団体の皆さまにアンケートにご協力いただき、たくさんのご回答、ご意見を頂戴しました。ありがとうございます。

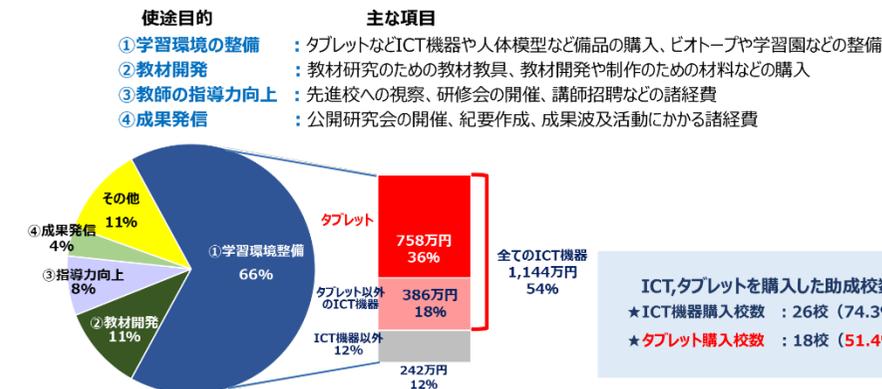
昨年度は、助成金額が教育現場のニーズに届いているかを中心にアンケート調査いたしました。結果、助成金60万円は **妥当だと思う：67.9%** **増額を希望：32.1%** という回答を得ました。

約1/3の「助成金は不足」という声を受けて、2016年度助成校35件について助成金の主な用途を調べたところ、74.3%の助成校・団体がタブレットを中心としたICT機器の購入を希望していました。(以下グラフ参照) ICT機器の主流がデジカメから単価が高いタブレットにかわり、実践に必要な台数を購入出来なくなりました。

皆さまの声に応じて **※2017年度から助成金額を60万円から70万円に増額**

■ 目的別 助成金額の占める割合について **助成金はどのような目的で活用されているのか**

2016年度 助成件数35件 助成総額2,100万



ICT,タブレットを購入した助成校数
 ★ICT機器購入校数 : 26校 (74.3%)
 ★タブレット購入校数 : 18校 (51.4%)

これからも皆様の声に応じてまいりますので、引き続きアンケートにご協力をお願いいたします。